

現代短歌分類辭典

別名 現代短歌總索引

第六十九卷

津 端 亨 編 纂

津 端 亨 編纂

現代短歌分類辞典

第六十九卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辞典

69

昭和五十七年六月二十五日発行 定価一、八〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 亨

▽111

東京都台東区鳥越一―十一―八

発行所 現代短歌分類辞典刊行所

代表 津 端 亨

振替 東京 三―九三―一四番
電話 〇三(八五〇)九八六九番

目

次 (第六十九卷)

歌数	頁数		歌数	頁数
五八	一	幾春	二一	二七
二三	六	幾春秋	二	一九
二〇	八	幾春花	一	〃
八	九	幾班	一	〃
二三	一〇	幾番	一	〃
三	二	幾晚	三	二〇
六	〃	幾晚春	一	〃
二	三	幾日	七 七一	〃
一	〃	生日	一三	八四
二六	〃	い杭	三	八六
七	二六	幾尾	三	〃
一	〃	幾日幾日	一	〃
一	二七	幾日幾夜	二	〃
一	〃	幾匹	二五	八七
幾花鉢				
生葉瑞葉				
幾花鉢				
幾花				
幾鉢				
幾はた年				
幾畑				
幾枉				
幾箱				
いくばくを				
いくばくなし				
いくばくもなく				
いくばくもなき				
いくばくも				

幾久
幾久しく
幾久に
幾久々に
幾幾
幾幾々
いくひでり
育雛
幾日ぶり
幾日前
幾百
幾百幾千
幾百億円
幾百学徒
幾百樹
幾百機
幾百段

一 一 一 一 一 一 七 三 七 一 一 一 五 一 三 二 六

一
〇〇
〃
〃
〃
〃
九
九
〃
九
〃
〃
〃
九
〃
〃
九
〃
八
九

幾百回
幾百種
幾百世代
幾百千
幾百代
幾百段
幾百疊
幾百度
幾百人
幾百年
幾百羽
幾百倍
幾百鉢
幾百歩
幾百枚
幾百万
幾百万人

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

幾百里 幾日和 幾ひら 幾尋 幾広田 幾分一 幾袋 幾房 幾部隊 幾冬 幾部落 いく振 幾分 いくぶん 幾分間 幾分秒 幾重

一六二 一 一 一 六 一〇 三 一 三 一 五 一 一 一 一 四 七〇 一 三

〃 〃 二五 二四 〃 〃 二三 〃 〃 二三 〃 〃 〃 〃 二二 〃 一〇五 一〇四

いくへ青笠
幾兵
幾俵
幾秒
幾秒時
いくーべからーじ
いくーべかり
いくーべかり
いくーべかりーける
いくーべかりーし
いくーべかるーらし
いくーべき
いくーべきーか
いくーべきーごとく
いくーべきーは
いくーべく
いくーべくーは

一〇 一九 一 一 三 四六 二 一 二 一四 一 一 一 一 四 一 一 一

一三八 一三七 〃 〃 一三六 〃 〃 一三三 一三一 〃 〃 一三〇 〃 〃 〃 〃 〃 一三九

いくーべくーば
 いくーべくーも
 いくーべくーや
 いくーべくーを
 いくーべけれ
 いやへごごろ
 いくーべし
 幾ページ
 いくーべしーと
 いくーべしーや
 いくーへーなす
 いくーへーなみ
 いくへなり
 幾重花びら
 幾重まがり
 幾部屋
 幾重八百潮

一 一 一 一 一 一 一 四 八 六 三〇 一 一 一 一 三 一

〃 一四六 〃 〃 〃 〃 一四五 〃 一四四 一四三 〃 〃 〃 〃 一四〇 〃 一三九

幾重山
 幾重山なみ
 幾片
 幾変遷
 幾秀
 幾歩
 いくほど
 幾ボート
 いくほどーか
 いくほどーの
 いくほどーも
 幾本
 幾本目
 幾間
 生馬
 幾枚
 幾曲り

六三 三四 一 四 一 六七 一三 四 三 一 六 二 二 四 一 一 四

一六〇 〃 一五七 〃 一五六 一五〇 〃 一四九 〃 〃 一四八 〃 〃 一四七 〃 〃 一四六

いくーまがりしーつ	一	一六五	幾万里	一	一七三
いくまがりしーつつ	二	〃	生身	一	〃
いまがりしーて	一〇	〃	い組	一	〃
いくまがりする	三	一六六	幾幹	一	〃
いくまがりするーらむ	一	一六七	いくみくど岩	一	一七四
いくまがりせーし	三	〃	幾岬	一	〃
幾巻	一	〃	いくみそぎしーて	一	〃
幾廻り	一	〃	いくみ竹	五	〃
幾万	四四	〃	幾み魂達	二	一七五
幾万回	一	一七二	幾峰	五	〃
幾万光年	二	〃	いく峯々	二	〃
幾万尺	一	一七三	幾宮	一	一七六
幾万人	二	〃	いーくみーよりーあひ	一	〃
幾万年	一	〃	幾民族	一	〃
幾万年前	一	〃	いくむつみせーし	一	〃
幾万羽	一	一七三	いくむなしさ	一	〃
幾万尾	二	〃	幾棟	一三	〃

幾村	三	一七六	幾百田 ^{ももか}	一	一九二
幾むら	二五	"	幾百千 ^{ももち}	一	"
いくむらがり	二	一八〇	幾百人 ^{ももち}	一	"
幾群薄	一	"	幾百年 ^{ももと}	一〇	"
幾群谷	一	一八一	幾百鳥 ^{ももと}	一	一九三
幾叢々	二三	"	幾百代 ^{ももよ}	一	一九四
いくむれ	二三	"	幾様	一	"
幾芽	一	一八三	幾谷中	一	"
伊久米伊理昆古	一	"	幾藪	一	"
幾巡り	一四	"	幾やま	四六	"
いくめぐりしーて	四	一八五	幾やまかは	二〇	一九八
いくめぐりすーも	一	"	幾山峽	一	"
いくめぐりせーる	一	"	幾山越	四	"
幾面	一	"	幾山坂	一	二〇〇
生くーも	二	一八六	幾山裾	一	二〇一
幾本	六九	"	幾山溪	二	"
幾物語	一	一九二	幾山つづき	一	"

幾山なだり	一	二〇二	幾夜々	一	二三七
幾山脈	一三	〃	幾代々	七	〃
幾山壁	二	二〇三	幾夜 よ	三	〃
幾山めぐり	一	〃	幾万	五	二三八
幾山々	一	〃	幾万杉	一	〃
幾ゆきかへり	二	〃	幾万年	一	〃
幾由旬	一	〃	幾万代	四	二三九
幾ゆふべ	二	二〇四	幾万びと	一	〃
幾代(人名)	一	二〇五	イクラ	一	〃
幾夜	三九	〃	幾等 いくも	六七	〃
いくよ(花)	一	二三三	いくらーか	七四	二四五
いくよ	二	〃	いくらーかーの	一四	二五一
いくーよ	三	二三三	いくらーかーは	四八	二五三
いくよーさ	三八	〃	五十羅漢	一	二五七
いくよさぶり	一	二三六	いくらく	一七	〃
幾宵	一	〃	いくらくーの	二	二五九
幾宵月	一	〃	生くらくーは	一五	〃

いくらーも
いくらぐらゐ
いくーらし
いくらーじ
いくらーでも
いくらーの
いくーらむ
いくらーも
幾里
海礁^{いづ}
幾流
幾輛
幾輪
郁李花
生くる
(こそ) いくる
(ぞ) いくる

二 一 五九 一 二 二 一 五七 一四 五 九 一 四 一 三 二 七

二六〇 二六一 二六二 二六三 二六四 二六九 二七五 二七六 三六 三六

イーグル
活くる^{いくる}
何鹿^{いづる}
いくるーか
いくるーが
いくるーかな
いくるーかーに
いくるーかも
いくるーからーに
いくるーごと
いくるーごとき
いくるーごとくに
いくるーさへ
いくるーしぬる
いくるーしぬるーの
いくるーで
いくるてふ

三 一 二 一 一 一 一 二 二 二 一 五 五 九 一 五 二

三六 三七 三八 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九 三九

生くるーと
 生くるーとーぞ
 生くるーとーは
 生くるとふ
 生くるーとも
 生くるーなし
 生くるーなど
 生くるーならずーと
 生くるーならねーど
 生くるーならーねーば
 生くるーならーむーか
 生くるーならーめ
 生くるーなり
 生くるーなる
 生くるーに
 生くるーにーも
 生くるーにーや

三〇
 二
 三
 四
 二
 一
 一
 一
 一
 一
 二
 一
 一
 一
 二
 二
 二

三三一
 三三三
 三三四
 " "
 " "
 三三五
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 三三六
 " "
 " "
 三三七
 " "
 三三九
 三四〇

生くるーの
 生くるーのーか
 生くるーのみ
 生くるーのみーに
 生くるーは
 生くるーはーや
 生くるーべき
 生くるーべく
 生くるーべし
 生くるーも
 生くるーや
 生くるーやーと
 生くるーよーは
 生くるーより
 生くるーらし
 生くるーを
 生くるーをーぞ

一
 一
 五
 一
 一
 一
 二
 三
 一
 一〇
 六
 一
 一
 七
 三
 一六
 一

三四〇
 " "
 三四一
 " "
 " "
 三四二
 " "
 " "
 三四三
 " "
 三四四
 " "
 三四五
 " "
 三四六
 三四七

幾^{もとめ}少女
幾尾根
合計

三、七二〇首

九 一

” 三六〇

いくばくも【名詞・助詞】

「いく」は不定の数量、程度をさす語「ばく」は接尾語、①疑問表現、どれほど、どんなにか多く。②不定反語に用いて「どれほどでもない」意を表す。いくらも。

いくばくも余す日のなき歳の暮心せきつつ長き冬にいる②

久保田 不二子

いくばくも雨ふらずして暮れしより稲妻北の果てに光れり

隅 田 葉 吉

いくばくも歩まぬ兎をいだきあげ霧にしづける花を折らしむ①

村 田 利 明

いくばくもあらぬ命を慨^{うれ}たくも世の煩らひに磨りへらしにき⑥

花 田 比 露 思

いくばくもあらぬ命をサルビヤのしづかにあかし此の夕庭に（新萬葉集六）

長谷川 鈴

いくばくもあらぬ盛りにこの桜妙を浴ぶなり街に立つとて⑬

與謝野 晶 子

いくばくもあらぬ狭庭に生ひにける孟宗竹にうごく秋かぜ③

三 浦 義 一

いくばくもあらぬしひなを朝々に子ら撒き吾撒き家鴨恙なき

藤 川 忠 治

いくばくもあらぬ骨よと眼に浮ぶ子の面影に笑みかけむとす①

塚 田 菁 紀

いくばくもあらぬ松葉を掃きにけり凍りて久しわが庭の土④

島 木 赤 彦

いくばくも

いくばくも

いくばくもあらぬ余生と思へれば慎み行かむ神のまにまに⑥

いくばくも生けらむものか故里の樹樹の新芽を見ずてくやしも①

いくばくも生命いけらぬ現身のさだめはかなく星を見てをり③

いくばくも未だへなくに葉がくり花なりし萩の莢^{えん}になりつつ①

いくばくも海を隔たることなしかたまりあひて人家の灯みゆ③

幾何も暮れきらぬ前に戸をさして身にそふまでに灯をともしたり④

幾ばくも恋の秘密のささやきに気はひ異^{かは}らぬ沈丁の花⑭

いくばくも育たぬごとく思ひみる幼児笑ふ齒のなき齒ぐき②

いくばくもとどまるにあらず吞みし湯の硫黄の匂ひをほのかと思ふ

いくばくも眠らぬまなこ疲れそり雪照りかへす窓のあかるく①

いくばくも登り来ずして櫟生の芽吹きの中に立ちて汗ばむ③

幾ばくも船下らねど玖磨の橋山に隠れぬ溪めぐるらん⑭

花田 比露思

富岡 冬野

岡本 大無

長塚 節

栗原 潔子

小宮 良太郎

與謝野 寛

村田 利明

長沢 美津

鹿児島 寿藏

塚田 菁紀

與謝野 寛

いくばくも降らぬものから昼雨の土にしみいりてをる静けさや①

三浦義一

いくばくも山の開けし隙^{ひま}なけれ筑後の友が来んと云ふ方②⑦（岩波文庫）

與謝野晶子

幾許^{いくばく}も余命なからむ今にして怠りしことを切に悔ゆらく⑥

花田比露思

いくばくも若き日なしと思はねどわが手に満たす春の日の花（春泥集）

與謝野晶子

生くる日のあと幾ばくもなき兄ぞ茜の空の移らふも惜し③

久保井信夫

いたづらに待たむと言ひし我ならねどあはれいくばくも去年に變らず

柴生田稔

一心に歩み急げどいくばくも沼遠ぞかず昏くうしろに②

遠山光榮

海の色にはかに紺の深々と河口^{くわく}隔りていくばくもなく③

山下秀之助

うろこ着る獣と居りてぎごちなく前^{まへ}し後^{うしろ}しいくばくも行かず①

斎藤史

おしなべてはかなかりける少年の日の心をいくばくもへだてざるべし①

堀内通孝

業卒へていくばくもなく盲^めひゆきし君の事をきく暑き部屋中に①

堀内通孝

こまごまとひろひいれしが吾子の骨白磁の壺にいくばくもなし（新萬葉集八）諸星利作

いくばくーも